

私は母校である府立高校に伺い、HR クラスは3年を、教科指導は同じく3年の世界史を担当させていただいた。

当初の目標としては、「生徒の顔と名前を覚える」、「校内清掃に積極的に取りくむ」、「授業および行事には人一倍積極的に取りくむ」という点をあげ、実習校に伺わせていただいた。

(1) 学校における人間関係については、おおむね良好であり、スムーズにとけこめたと感じる。私が担当したHRのクラスにおいては、一日目から生徒たちが積極的に話しかけてくれ、最初は驚いたものの、私自身、人とコミュニケーションをとるのは好きなので、しっかりとコミュニケーションをとることができた。また、日がたつにつれ、ただ面白い話をするというだけでなく、受験についてや学校生活、クラブについての相談等も話すことができ、さらには、上記のようなことをHRクラスの生徒だけでなく、1年から3年までの学年、どのクラスの生徒とも行えるようになり、とてもよい経験ができた。

最終日のSHRでは、私から生徒に楽器演奏というプレゼントもおくり、また、生徒たちからもプレゼントを頂いたので、生徒との人間関係は、適切な距離でしっかりきづけたとを感じる。先生方との人間関係に関しても、私が現役の時にお世話になった先生が多く残っていらっしやったり、先生方から交流の機会を頂いたりしたので、相談もしやすく、ご教授をしていただきやすい、良好な関係であったと感じる。

ただ、生徒との人間関係に関しては、こちらからもっと積極的な姿勢をうちだすことができたのではないかという点と、マジョリティばかりに目がいってしまい、マイノリティの生徒たちにはなかなか目を向けることができなかつたのが大きな反省点である。教員としては、そのようなマイノリティの生徒ほど、大切にし、目を向けるべきであると感じたので、実際に教育の場に身を置くようになれば、今回の反省点を大いにかかしていきたいと考える。

(2) 実習中の教科指導に関しては、苦戦することも多々あったが、それを乗り越え、最後まで自分の目指す授業である、生徒主体の授業を追求することができたと感じる。

私は3年の世界史で、キリスト教の成立と発展およびローマの生活と文化、という単元を担当させていただいた。通常なら、その2単元を1授業で行うところを、担当して下さった先生のご厚意により、より時間をかけて、授業を行うことができた。“キリスト教～”に関しては、1年次の必修である倫理にておおむね学習しているとのことだったので、私が授業を行う際は、世界史の中のキリスト教、具体的に言えば、ローマ文化の中のキリスト教という点に力を置いた。ローマの人たちとキリスト教、ローマ帝国というシステムの中でのキリスト教というように、ローマとの結びつきを意識させたので、生徒たちも、ノートや資料集などを使って、自ら、ローマとキリスト教について、結びつきを意識して、学習を行っていた。

ローマの生活と文化の範囲においては、授業のはじめに、ローマの生活や文化を題材とした「テルマエ・ロマエ」という映画を生徒たちにみせた。ただたんに映画を生徒にみせ

るということだけだと、単元との結びつきが図れないので、映画をみる前に、生徒たちに、ローマの街なみや人々の服装に注目するよう指示を出し、メモをとらせた。後でそのメモの内容を見てみると、私の伝えたかったことが書けていたので、メッセージは伝わっていたと感じる。

教科指導全体を通してみると、授業用のプリントや指導案は何度も推敲し、授業の練習も何度もさせていただいたので、私がしたかった授業はできたと感じる。ただ、板書のテクニックや字の丁寧さ等、実践の場から得ることができた課題も多くあるので、実習という機会はなくとも、自らその課題にうちこんでいきたい。

(3) 実習中は、HR やクラブ活動等、毎日様々な特別活動に参加させていただいたが、一番印象に残っているのは体育祭である。母校でもある実習先の高校の体育祭は、伝統的に毎年かなり力を入れ、盛り上がるものであったが、今年もそうであった。また、それもただたんに盛り上がるだけというわけではなく、生徒が主体となって運営していくという特徴点もある。実習中も、生徒たちは教員に言われるのではなく自主的に体育祭の練習をはじめ、応援団というものも組織していた。さらに、例えば下校時刻を生徒たち自らが決め、共有し、守ったり、練習場所もルールを決めたりと、教員に言われるまでもなく、自ら積極的に律していた。また、体育祭が終わった日の後片付けも、生徒たちが決まりを共有し、積極的に片付けを行っていた。

このようなことから、私が伺った高校での体育祭という特別活動では、生徒の自律心を生徒自らが率先して学べる、とても貴重な場となっていると考えられる。ただ、あまりにも体育祭に、全校体制で力を入れすぎ、授業が少しおろそかになりがち傾向にあったのは、客観的にみるとよくないことなのでは、とも感じた。

実習を終え、当初に挙げた 3 つの目標は、教科指導や生徒指導といった様々な場において実践することができ、達成できたと考える。

私自身が考える教育の本質は、「優しさ」にあると感じる。昨今、教員には厳しさを求められるが、私は優しさの中に厳しさがあると感じる。生徒のために、生徒のことを思って厳しく指導することこそ、厳しさであり、そしてその厳しさは、優しさからくるものであると私は考える。

職業として、教育をとらえる場合は、とにかく共有されているルールを守り、実践することであると考え。大きくは教育基本法や学習指導要領、細かく見れば、その学校でのルールや意識等、教育を行っていくうえではルールがたくさんある。そのルールを守り、誰にも相応な教育を行っていくことこそ、公教育であると考え。